

Q6

90カ月以上になった小児に対するDPTワクチンの接種はどのようにしたらよいでしょうか。

A

百日咳は数週間に及ぶ頑固な咳のため、年長児にとっても厄介な病気です。満1歳以下では致死率の高い疾患です。百日咳は90カ月を過ぎても罹患しますが、生命に対する危険性はほとんどありません。しかし近年、年長児あるいは成人での百日咳罹患は軽症であっても乳幼児への感染源として問題になるところから、百日咳の免疫付与を無視することなくDPTワクチンを選択する方法があります。また、ジフテリアと破傷風の免疫をつけておくことがまず大切であることから、DTトキソイドを選択する方法もあります。(参照 p36, Q5)